

健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学に関する試験検査業務と感染症情報センター、並びに研究所の管理運営業務を実施している。

細菌検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒・苦情及び感染症発生時の検査、収去食品、飲料水、プール水、河川水及び浴槽水等の試験検査、並びに調査研究を実施している。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒及び腸管感染症の発生時の検査、並びに調査研究を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査及び HIV 抗体検査を実施している。

理化学検査では、食品・添加物、及び家庭用品の規格等についての試験検査、食中毒、苦情食品の理化学検査、飲料水及びプール水の水質検査、室内空気中の化学物質検査、並びに調査研究を実施している。

また、試験検査の信頼性確保を目的として、内部精度管理・外部精度管理を実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に基づく感染症情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開（毎週更新）を行っている。

1 細菌検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査
保健所からの依頼により検査を実施した（表 1-2-1）。

腸管出血性大腸菌（EHEC）では 0111、0157 の届出があり検査を実施した（表 1-2-2）。0111（1 株）、0157（26 株）については、MLVA 法による遺伝子解析を実施した。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）では、カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）として *Enterobacter cloacae* 1 株及び *Klebsiella pneumoniae* 1 株からカルバペネマーゼ遺伝子（IMP 型）が検出された。その他 *K. pneumoniae* 2 株から ESBL 遺伝子（CTX-M 型）が検出され、*E. cloacae* 3 株及び *Enterobacter sp.* 1 株から AmpC 型 β-ラクタマーゼ遺伝子（EBC 型）が検出された（表 1-2-3）。

コレラ菌について、血清型及び毒素産生について検査を行った。髄膜炎菌について血清型検査を実施した。ライム病ではイムノブロット法による検査を実施した。また、国立感染症研究所にレプトスピラ症の検査を依頼した。

(2) 食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及びふきとり検体等について細菌の検索を行った（表 1-3）。原因菌等として、検出されたものは無かった。

(3) 収去食品等の検査

食品衛生法に基づく規格基準、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律施行規則に基づく外部検証における食鳥とたい（食鳥肉）の微生物試験、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した（表 1-4）。

(4) 水質検査

水道法に基づく飲料水、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水の細菌検査を実施した。

また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレジオネラ検査を実施した（表 1-5）。

(5) 腸内細菌検査

保健所等からの依頼により職員及び給食従事者の定期検便等を実施した（表 1-6）。

2 ウイルス検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査
保健所等からの依頼により検査を実施した（表 1-7）。

ア 麻しんウイルス及び風しんウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 11 検体、血液 12 検体及び尿 10 検体の計 33 検体について検査を実施した。その結果、麻しんウイルス及び風しんウイルスは検出されなかった。

イ 新型コロナウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 8 検体、鼻咽頭ぬぐい液 1,950 検体、喀痰 2 検体、髄液 2 検体及び唾液 6,119 検体の計 8,081 検体について検査を実施した（陰性化確認検査を含む）。その結果、新型コロナウイルスが咽頭ぬぐい液 4 検体、鼻咽頭ぬぐい液 554 検体、唾液 2,868 検体から検出された。また、ウイルスが検出された一部の検体、758 検体について全ゲノム解析を実施した。

ウ その他のウイルス検査

保健所、病原体定点及び医療機関から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 148 検体について検査を実施した。

エ リケッチア検査

保健所から依頼された血液 6 検体、痲疹 3 検体の計 9 検体について検査を実施した。その結果、オリエンティア・ツツガムシが血液 1 検体、痲疹 1 検体から検出された。

(2) 食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及び拭き取り検体等について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体について遺伝子解析（シーケンシング）を実施した（表 1-8）。

3 臨床検査

(1) 三歳児健康診査

三歳児健康診査において、尿検査(一次、二次)を実施した(表 1-9)。一次検査での有所見者(糖・蛋白・潜血反応が±以上、白血球・亜硝酸塩が±以上)を対象に、二次検査を実施した。

(2) HIV抗体検査

特定感染症検査等事業に係るHIV抗体検査を実施した(表 1-10)。スクリーニング検査 45 件は全て陰性であった。

表 1-1 2022 年度 健康科学課(細菌・寄生虫・ウイルス・臨床)検査実施状況

		検体数
細菌	結核・感染症発生動向調査事業	149
	食中毒・苦情及び感染症発生時(寄生虫を除く)	892
	収去食品等	332
	水質検査	749
	腸内細菌検査	158
寄生虫	食中毒・苦情及び感染症発生時	0
ウイルス	結核・感染症発生動向調査事業	8,262
	食中毒・苦情及び感染症発生時	1,312
臨床	三歳児健康診査(尿検査)	6,835
	HIV抗体検査	45
総計		18,734

表 1-2-1 2022 年度 結核・感染症発生動向調査事業に基づく細菌検査実施状況

検査項目	検体数
赤痢菌	-
チフス菌	-
コレラ菌	1
EHEC	117
CRE	24
ライム病	5
髄膜炎菌	1
レプトスピラ症(依頼)	1
計	149

表 1-2-2 2022 年度 EHEC 検査実施状況(再掲)

血清型	検体数
0111	6
0157	111
計	117

表 1-2-3 2022 年度 CRE 検査実施状況(再掲)

菌種	検体数	検出遺伝子数(型)
<i>Enterobacter cloacae</i>	7	1 (IMP) 3 (EBC)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	11	-
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3	2 (CTX-M) 1 (IMP)
<i>Serratia marcescens</i>	1	-
<i>Enterobacter sp.</i>	2	1 (EBC)
計	24	8

表 1-3 2022 年度 食中毒・苦情及び感染症発生時の細菌検査実施状況(寄生虫を含む)

区 分		総数	食品	糞便	ふきとり	水	虫体	その他
検 体 数		892	207	357	321	2	-	5
項 目 数		13,287	3,105	5,355	4,815	2	-	10
検 査 項 目	ビブリオ属菌	885	207	357	321	-	-	-
	黄色ブドウ球菌	885	207	357	321	-	-	-
	サルモネラ属菌	885	207	357	321	-	-	-
	カンピロバクター	885	207	357	321	-	-	-
	腸管出血性大腸菌	892	207	357	321	2	-	5
	病原大腸菌	885	207	357	321	-	-	-
	セレウス菌	885	207	357	321	-	-	-
	ウェルシュ菌	885	207	357	321	-	-	-
	エルシニア	885	207	357	321	-	-	-
	エロモナス	885	207	357	321	-	-	-
	プレジオモナス	885	207	357	321	-	-	-
	赤痢菌	885	207	357	321	-	-	-
	コレラ菌	885	207	357	321	-	-	-
	チフス菌	885	207	357	321	-	-	-
	パラチフス菌	885	207	357	321	-	-	-
	寄生虫	-	-	-	-	-	-	-
MLVA	5	-	-	-	-	-	5	
検 出 状 況	黄色ブドウ球菌	57	-	52	5	-	-	-
	(再掲) コアグラーゼⅢ	1	-	1	-	-	-	-
	コアグラーゼⅤ	1	-	1	-	-	-	-
	<i>Salmonella</i> Enteritidis	2	-	2	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌	5	-	-	-	-	-	5
	(再掲) 0157、VT1	1	-	-	-	-	-	1
	0157、VT1、VT2	4	-	-	-	-	-	4
	<i>Campylobacter jejuni</i>	7	-	7	-	-	-	-
	セレウス菌	24	4	10	10	-	-	-
	ウェルシュ菌	3	-	3	-	-	-	-

表 1-4 2022 年度 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌検査項目																	項目数			
		細菌数	腸内細菌科菌群数	大腸菌群	E.coli 最確数	E.coli	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セラウス菌	ウエルシュ菌	リステリア	クロストリジウム属菌	恒温試験		細菌試験	抗生物質(簡易法)	
総数	332	227	55	121	7	87	2	406	18	102	83	50	79	3	-	-	-	5	5	3	1,253	
魚介類	24	7	-	-	7	-	-	62	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	97
冷凍食品 (無加熱摂取)	11	11	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
冷凍食品 (凍結前加熱)	21	20	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
冷凍食品 (凍結前未加熱)	15	14	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
冷凍食品 (冷凍鮮魚介類)	5	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
魚介類加工品	12	3	-	12	-	-	-	19	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
肉卵類及び その加工品	102	61	55	3	-	13	-	-	19	43	10	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	217
乳製品	7	5	-	7	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
アイスクリーム類	10	10	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
氷菓	10	10	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
穀類及び その加工品	7	6	-	5	-	2	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	20
野菜類・果実及び その加工品	46	25	-	19	-	18	-	84	-	14	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	183
菓子類	23	23	-	23	-	-	-	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	69
清涼飲料水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
牛乳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
加工乳(3%未満)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品	49	42	-	4	-	40	-	240	-	40	40	40	40	2	-	-	-	5	5	-	-	498

表 1-5 2022 年度 水質細菌検査実施状況

項目	検体数	一般細菌	嫌気性芽胞菌	大腸菌	大腸菌群	大腸菌群数	大腸菌数	EHEC O157	レジオネラ属菌	項目数
飲料水										
水道原水	128	4	104	124	-	-	-	-	-	232
水道水	233	233	-	233	-	-	-	-	-	466
井戸水	183	183	-	182	-	-	-	-	-	365
小計	544	420	104	539	-	-	-	-	-	1,063
プール水	12	12	-	-	12	-	-	-	-	24
事業場排水	25	-	-	-	-	25	-	-	-	25
河川水、海水	134	-	-	-	-	-	132	2	-	134
浴槽水、冷却塔水等	34	-	-	-	-	-	-	-	34	34
総数	749	432	104	539	12	25	132	2	34	1,280

表 1-6 2022 年度 腸内細菌検査実施状況

検査項目	項目数	検出数
赤痢菌	122	-
チフス、パラチフス A 菌	122	-
腸管出血性大腸菌 O157	158	-
計	402	-

表 1-7 2022 年度 結核・感染症発生動向調査事業に係るウイルス等検査実施状況

		咽頭 ぬぐ い液	鼻咽頭 ぬぐい 液等	糞 便 等	髄液	血液	尿	唾液	その他	計	
検 体 数	病原体定 点	13	74	6	11	-	-	-	1	105	
	保健所	28	1,951	2	5	8	29	12	6,119	3	8,157
	計	41	2,025	8	16	8	29	12	6,119	4	8,262
検 出 状 況	インフルエンザウイルス	-	4	-	-	-	-	-	-	4	
	コクサッキーウイルス	-	1	-	1	-	-	-	-	2	
	エコーウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	エンテロウイルス	-	2	-	-	-	-	-	-	2	
	ヒトパレコウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ヒトライノウイルス	-	4	14	-	-	-	-	-	18	
	ヒトコロナウイルス	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	新型コロナウイルス	4	554	-	-	-	-	-	2,868	3,426	
	RS ウイルス	2	9	2	-	-	-	-	-	13	
	ヒトメタニューモウイルス	-	9	1	-	-	-	-	-	10	
	パラインフルエンザウイルス	-	5	-	-	-	-	-	-	5	
	ヒトボカウイルス	1	14	-	-	-	-	-	-	15	
	アデノウイルス	6	-	-	3	-	-	-	-	9	
	単純ヘルペスウイルス	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ヒトヘルペスウイルス	2	-	-	-	-	-	-	-	2	
	水泡・帯状疱疹ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	パルボウイルス B19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ムンプスウイルス	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	A 型肝炎ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	E 型肝炎ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ノロウイルス	-	-	-	2	-	-	-	-	2	
	サポウイルス	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
	ロタウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	アストロウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	デングウイルス	-	-	-	-	-	2	-	-	2	
	ジカウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
チクングニアウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
麻しんウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
風しんウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SFTS ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
リケッチア・ジャポニカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
オリエンティア・ツツガムシ	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	

表 1-8 2022 年度 食中毒・苦情及び感染症発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	412	397	-	314	-	1,123
	感染症	-	189	-	-	-	189
	計	412	586	-	314	-	1,312
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	412	586	-	314	-	1,312
	その他のウイルス(※)	208	575	-	309	-	1,092
	遺伝子解析	-	50	-	-	-	50
	計	620	1,211	-	623	-	2,454
検 出 状 況	ノロウイルス G I	-	5	-	-	-	5
	ノロウイルス G II	-	180	-	-	-	180
	サポウイルス	-	73	-	-	-	73
	アストロウイルス	-	-	-	-	-	-
	ロタウイルス	-	-	-	-	-	-
	アデノウイルス	-	-	-	-	-	-

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-9 2022 年度 三歳児健康診査

検 査 項 目		区 分	総 数	内 訳	
				一 次	二 次
尿	糖		6,835	6,282	553
	蛋白		6,835	6,282	553
	潜血反応		6,835	6,282	553
	白血球		6,835	6,282	553
	亜硝酸塩		6,835	6,282	553
	比重		6,282	6,282	-
	沈渣		553	-	553

表 1-10 2022 年度 HIV 抗体検査実施状況

検 査 項 目	件 数	陽性数
スクリーニング検査	45	-
確認検査	-	-

4 理化学検査

保健所等からの依頼により検査を実施した。2022年度はこれまで新型コロナウイルス感染症の感染拡大により縮小し実施されていた保健所食品安全課の収去が再開されたことから、検査依頼数が増加した。また、依頼がなかった室内空気中の化学物質検査は実施しなかった。

(1) 食品等検査

検査総数は、食品等 283 検体、16,919 項目であった。

ア 添加物等検査

収去・買上検査として、甘味料 208 項目、着色料 1,362 項目、保存料 170 項目、酸化防止剤 111 項目、漂白剤・殺菌剤 16 項目、発色剤 18 項目、防ばい剤 2 項目、品質保持剤 6 項目、乳化剤 10 項目、合計 1,903 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

イ 農産物等の残留農薬検査

収去・買上検査として、60 検体 14,455 項目、学校給食食材 9 検体 9 項目、全体として 261 種類の農薬について、合計 69 検体 14,464 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-2-1~3)。

ウ 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

食肉(牛肉・鶏肉) 23 検体 422 項目(うち 4 検体 4 項目は学校給食食材)、魚介類(生食用カキ等) 10 検体 35 項目、全体として 23 種類の動物用医薬品について合計 33 検体 457 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-3)。

エ 食品中の放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による汚染状況を把握するため、流通食品 18 検体、2 種類の放射性物質(セシウム 134、セシウム 137)について合計 36 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-4)。

オ 苦情食品検査

保健所から依頼された苦情食品検査は 1 検体で、シブトラミン 1 項目を実施した(表 1-11-1、表 1-11-5~6)。

(2) 家庭用品の規格検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、ホルムアルデヒド等の項目について繊維製品 12 種 70 検体 103 項目、家庭用化学製品 3 種 8 検体 22 項目、合計 15 種 78 検体 125 項目の検査を実施した(表 1-12)。

(3) 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51 基準項目(31 健康項目+20 性状項目)、及び「千葉市遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を実施した。

検査件数は 597 件で、このうち飲料水等の水質検査は 584 件、プール水は 13 件であった(表 1-13-1)。

自家用井戸水の検査件数 185 件中 38 件(20.5%)で不適項目があった(表 1-13-2)。

必須項目検査を実施した自家用井戸水(181 件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表 1-13-3)。

検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査の検体数と不適合数を集計した(表 1-13-4)。

プール水検査状況を集計した(表 1-13-5)。

表 1-11-2-1 2022年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
果実	いちご	2	484
穀類	小麦粉	5	1,285
豆類	らっかせい	3	693
野菜	えだまめ	1	249
	オクラ	1	250
	かぼちゃ	1	257
	カリフラワー	1	249
	キャベツ	5	1,235
	きゅうり	2	498
	こまつな	3	748
	さといも	1	250
	サラダ菜	2	498
	すいか	2	456
	すいか(果皮を含む)	2	28
	セロリ	1	249
	その他野菜	1	250
	だいこん	2	512
	トマト	1	256
	なす	1	256
	にら	3	744
	にんじん	4	1,028
	ねぎ	4	992
	はくさい	2	498
ばれいしょ	2	498	
ピーマン	2	499	
ブロッコリー	2	498	
ほうれんそう	2	498	
未成熟そらまめ	1	249	
わけねぎ	1	248	
合 計		60	14,455

表 1-11-2-2 2022年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 学校給食食材）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
野菜	キャベツ	3	3
	こまつな	1	1
	にがうり	1	1
	ねぎ	1	1
	ばれいしょ	1	1
	ほうれんそう	1	1
	レタス	1	1
合 計		9	9

表 1-11-2-3 2022年度 農作物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上、学校給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
1-ナフチルアセトアミド	58	ジフルベンズロン	58	フェンピロキシメート	58
EPN	58	シプロコナゾール	58	フェンブコナゾール	58
TCMTB	45	シベルメトリン	58	フェンプロパトリン	58
アクリナトリン	55	シマジン	58	フェンプロピモルフ	55
アザコナゾール	58	ジメチリモール	58	フェンメディファム	58
アザメチホス	37	ジメテナミド	58	フサライド	55
アジンホスメチル	58	ジメトエート	58	ブタクロール	58
アセタミブリド	58	ジメトモルフ	58	ブタフェナシル	58
アセトクロール	58	シメトリン	58	ブタミホス	58
アゾキシストロビン	58	ジメピペレート	58	ブプロフェジン	58
アトラジン	58	スピノサド	55	フラチオカルブ	58
アニロホス	58	スピロキサミン	58	フラムプロップメチル	58
アラクロール	58	スピロジクロフェン	13	フラメトピル	58
イサゾホス	58	ゾキサミド	54	フルアクリピリム	38
イツキサチオン	58	ターバシル	58	フルキンコナゾール	55
イツフェンホス	58	ダイアジノン	58	フルジオキソニル	58
イプロバリカルブ	58	ダイムロン	58	フルシトリネート	54
イプロベンホス	58	チアクロプリド	58	フルシラゾール	58
イマザメタベンズメチル	58	チアベンダゾール	53	フルチアセットメチル	51
イマザリル	58	チアメトキサム	58	フルトラニル	58
イミダクロプリド	58	チオベンカルブ	58	フルトリアホール	58
インドキサカルブ	58	チフルザミド	54	フルバリネート	55
ウニコナゾール p	58	ディルドリン	55	フルフェナセット	58
エスプロカルブ	58	テトラクロルビンホス	58	フルフェノクスロン	58
エタルフルラリン	55	テトラコナゾール	58	フルフェンピルエチル	58
エチオン	58	テトラジホン	58	フルミオキサジン	54
エディフェンホス	58	テニルクロール	58	フルミクロラックペンチル	54
エトキサゾール	58	テブコナゾール	58	プレチラクロール	58
エトフェンプロックス	54	テブチウロン	58	プロシミドン	58
エトフメセート	58	テブフェノジド	58	プロチオホス	55
エトプロホス	58	テブフェンピラド	58	プロパキサホップ	58
エポキシコナゾール	58	テフルトリン	58	プロパクロール	58
エンドリン	26	テフルベンズロン	58	プロパジン	58
オキサジアゾン	58	デルタメトリン	54	プロパニル	58
オキサジキシル	58	テルブトリン	38	プロパホス	42
オキサジクロメホン	58	テルブホス	55	プロピコナゾール	58
オキサミル	58	トラロメトリン	54	プロビザミド	58
オキシカルボキシ	17	トリアゾホス	58	プロヒドロジャスモン	25
オキシフルオルフェン	38	トリアレート	55	プロフェノホス	58
オメトエート	35	トリシクラゾール	54	プロポキスル	58
オリザリン	58	トリチコナゾール	58	プロマシル	38
カズサホス	58	トリフルラリン	55	プロメトリン	58
カフェンストロール	54	トリフロキシストロビン	58	プロモプロピレート	58
カルバリル(NAC)	58	トルクロホスメチル	58	プロモホス	58
カルフェントラゾンエチル	58	トルフェンピラド	58	プロモホスエチル	55
カルプロパミド	58	ナプロアニリド	58	ヘキサクロロベンゼン	4
カルボフラン	58	ニトロタールイソプロピル	58	ヘキサコナゾール	53
キナルホス	58	ノバルロン	53	ヘキサジノン	58
キノキシフェン	58	ノルフルラゾン	45	ヘキシチアブクス	45
キノクラミン	58	パクロブトラゾール	58	ベナラキシル	58
キントゼン	42	パラチオン	58	ベノキサコール	58
クミルロン	58	パラチオンメチル	58	ヘプタクロル	55
クレソキシムメチル	38	ハルフェンプロックス	55	ペルタン	58
クロキントセットメキシル	58	ピコリナフェン	58	ペルメトリン	51
クロチアニジン	58	ピテルタノール	58	ペンコナゾール	58
クロフェンテジン	18	ビフェノックス	58	ペンシクロン	58
クロマゾン	58	ビフェントリン	33	ベンゾフェナップ	58
クロマフェノジド	58	ピペロホス	58	ベンダイオカルブ	58

クロメプロップ	58	ピラクロストロビン	58	ベンディメタリン	58
クロリダゾン	58	ピラクロホス	50	ベンフルラリン	55
クロルタールジメチル	58	ピラゾホス	58	ベンフレセート	58
クロルデン	55	ピラフルフェンエチル	49	ホサロン	58
クロルピリホス	67	ピリダフェンチオン	54	ボスカリド	58
クロルピリホスメチル	58	ピリダベン	58	ホスチアゼート	58
クロルフェナピル	58	ピリフェノックス	58	ホスファミドン	58
クロルフェンソン	58	ピリフタリド	58	ホスメット	58
クロルプロファミ	58	ピリブチカルブ	58	ホレート	55
クロルベンシド	55	ピリプロキシフェン	58	マラチオン	54
クロルベンジレート	58	ピリミカーブ	58	ミクロブタニル	58
クロロクスロン	58	ピリミノバックメチル	54	メタバンドチアズロン	58
シアゾファミド	58	ピリミホスメチル	58	メタラキシル	58
シアナジン	58	ピリメタニル	58	メチダチオン	58
シアノホス	58	ピロキロン	58	メチルジメトン	51
ジウロン(DCMU)	58	ビンクロゾリン	58	メトキシクロール	58
ジエトフェンカルブ	58	フィプロニル	58	メトキシフェノジド	58
ジクロシメット	54	フェナミホス	58	メトラクロール	54
ジクロフェンチオン	58	フェナリモル	58	メビンホス	58
ジクロホップメチル	58	フェニトロチオン	58	メフェナセット	58
ジクロラン	58	フェノキサプロップエチル	58	メフェンピルジエチル	58
ジスルホトン	47	フェノキシカルブ	45	メプロニル	58
シニドンエチル	54	フェノチオカルブ	58	モノクロトホス	58
シハロトリン	58	フェノブカルブ	58	ラクトフェン	58
シハロホップブチル	58	フェンアミドン	58	リニューロン	58
ジフェナミド	58	フェンクロルホス	58	ルフェヌロン	58
ジフェノコナゾール	58	フェンスルホチオン	58	レナシル	58
シフルトリン	58	フェンチオン	58		
シフルフェナミド	58	フェントエート	58		
ジフルフェニカン	58	フェンバレレート	58		
				合計	14,464

表 1-11-3 2022 年度 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検体名 項目名	牛乳	生乳	鶏卵	牛肉	豚肉	鶏肉	アユ	マダイ	コイ	ニジマス	ウナギ	ヒラメ	クルマエビ	ブリ	スズキ	生食用カキ	総計
	0	0	0	13	0	10	0	0	0	1	0	0	1	1	0	7	
オキシテトラサイクリン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	7	29
クロルテトラサイクリン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
テトラサイクリン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
スルファメラジン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
スルファジミジン	-	-	-	13	-	10	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	26
スルファモノメトキシシ	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
スルファジメトキシシ	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
スルファキノキサリン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
スルファジアジン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
スルファチアゾール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
スルファドキシシ	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
スルファメトキサゾール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
オキノリン酸	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
チアンフェニコール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
オルメトプリム	-	-	-	13	-	6	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	22
チアベンダゾール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
フルベンダゾール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
トリメトプリム	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
5-プロピルスルホニル -1H-ベンズイミダゾール -2-アミン	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
レバミゾール	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
オフロキサシ	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
オルビロキサシ	-	-	-	13	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
項目数	0	0	0	286	0	136	0	0	0	9	0	0	9	10	0	7	457

表 1-11-4 2022 年度 放射性物質検査

対象食品	検体数	依頼元
流通食品	18	保健所（食品安全課）

表 1-11-5 2022 年度 苦情食品検査（理化学検査）

搬入月	検体の種類	検体数	検査項目
6月	健康食品	1	医薬品(シブトラミン)

苦情食品等検査依頼数1件 依頼検体数1検体1項目

表 1-11-6 2022 年度 項目別苦情食品等検査依頼件数

項 目	依頼件数
シブトラミン	1

表 1-12 2022 年度 家庭用品検査

項 目 名 検 体 名		ホルムアルデヒド			有機水銀	ディルドリン	水酸化カリウム・水酸化ナトリウム	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	容器試験	項目数合計	検体数合計
		生後二十四ヶ月以下の乳幼児用	左記を除くもの	小計									
試験検査数		59	12	71	34	0	2	4	6	6	2	125	78
基準違反数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
織 維 製 品	おしめ	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	おしめカバー	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	よだれ掛け	5	-	5	5	-	-	-	-	-	-	10	5
	下着	8	4	12	12	-	-	-	-	-	-	24	12
	中衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	外衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	手袋	2	2	4	4	-	-	-	-	-	-	8	4
	くつした	6	2	8	8	-	-	-	-	-	-	16	8
	帽子	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	衛生パンツ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	寝衣	8	2	10	-	-	-	-	-	-	-	10	10
	寝具	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	家庭用毛糸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
小 計		59	10	69	34	0	0	0	0	0	0	103	70
家庭用化学製品	家庭用接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	かつら等接着	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	-	-	4	4	4	-	12	4
	家庭用洗剤	-	-	-	-	-	2	-	2	2	2	8	2
	小 計		0	2	2	0	0	2	4	6	6	2	22

表 1-13-1 2022 年度 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検体名	検査種別	一般依頼件数	保健所依頼件数	合計
飲料水等	全項目検査	9	0	9
	省略不可能項目検査	62	0	62
	必須項目検査	328	6	334
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	10	0	10
	消毒副生成物検査	6	0	6
	原水項目検査	4	0	4
	単項目検査（細菌検査を含む）	159	0	159
	小 計	578	6	584
プール水		13	0	13
合 計		591	6	597

表 1-13-2 2022 年度 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率 (%)
自家用井戸水	185	147	38	20.5
専用水道原水	92	91	1	1.1
専用水道浄水	228	225	3	1.3
小規模専用水道原水	18	7	11	61.1
小規模専用水道浄水	19	18	1	5.3
簡易専用水道水	21	21	0	0.0
その他	21	21	0	0.0
合 計	584	530	54	9.2

表 1-13-3 2022 年度 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不 適合 数	不 適合 率 (%)	項 目 別 不 適 合 数										
				一般 細菌	大腸 菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度	
中央区	23	6	26.1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2
花見川区	20	6	30.0	2	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-
稲毛区	12	2	16.7	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若葉区	77	11	14.3	7	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-
緑区	46	10	21.7	5	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-
美浜区	1	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉市外	2	1	50.0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	181	36	19.9	20	3	2	14	0	0	0	0	0	1	2

表 1-13-4 2022 年度 項目別飲料水等理化学検査

		検体数	不適合数	不適合率(%)
健康 に 関 す る 項 目	カドミウム及びその化合物	13	0	-
	水銀及びその化合物	13	0	-
	セレン及びその化合物	13	0	-
	鉛及びその化合物	23	0	-
	ヒ素及びその化合物	20	0	-
	六価クロム化合物	14	0	-
	亜硝酸態窒素	419	2	0.5
	シアン化物イオン及び塩化シアン	81	0	-
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	421	16	3.8
	フッ素及びその化合物	13	0	-
	ホウ素及びその化合物	13	0	-
	四塩化炭素	13	0	-
	1,4-ジオキサン	13	0	-
	シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロ ロエチレン	13	0	-
	ジクロロメタン	13	0	-
	テトラクロロエチレン	13	0	-
	トリクロロエチレン	13	0	-
	ベンゼン	13	0	-
	塩素酸	78	2	2.6
	クロロ酢酸	77	0	-
	クロロホルム	77	0	-
	ジクロロ酢酸	77	0	-
	ジブロモクロロメタン	77	0	-
	臭素酸	77	0	-
	総トリハロメタン	77	0	-
	トリクロロ酢酸	78	0	-
	ブロモジクロロメタン	77	0	-
	ブロモホルム	77	0	-
ホルムアルデヒド	77	0	-	
性 状 に 関 す る 項 目	亜鉛及びその化合物	23	0	-
	アルミニウム及びその化合物	15	1	6.7
	鉄及びその化合物	35	1	2.9
	銅及びその化合物	23	0	-
	ナトリウム及びその化合物	13	0	-
	マンガン及びその化合物	31	1	3.2
	塩化物イオン	419	0	-
	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	13	0	-
	蒸発残留物	23	0	-
	陰イオン界面活性剤	13	0	-
	ジェオスミン	13	0	-
	2-メチルイソボルネオール	13	0	-
	非イオン界面活性剤	13	0	-
	フェノール類	13	0	-
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	419	0	-
	pH値	419	0	-
	臭気	419	0	-
色度	419	2	0.5	
濁度	419	3	0.7	
	合 計	4,738	28	

表 1-13-5 2022 年度 プール水検査

検査項目	検体数
pH値	12
濁度	12
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	12
総トリハロメタン	1
合計	37

5 精度管理

試験検査の信頼性確保を目的として、精度管理を実施した（表 1-14-1）。

また、試験検査及び使用する機器類の保守点検は、「標準作業書」に基づき実施した。「標準作業書」は常に見直し、必要な改訂を実施した。

（1）細菌検査

ア 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年 5 回実施した。

イ 外部精度管理

(7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 4 年度）「課題 3 コレラ菌の同定検査」に参加した。

(イ) 第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（黄色ブドウ球菌検査）を実施した。

(ウ) 令和 4 年度厚生労働科学研究補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」における「レジオネラ属菌検査の精度管理の調査研究」に参加した。

(エ) 厚生労働科学研究（食品の安全確保推進研究事業）「食中毒調査の迅速化・高度化及び広域食中毒発生時の早期探知等に資する研究」における精度管理試験（腸管出血性大腸菌の反復配列多型解析法）に参加した。

（2）ウイルス検査

ア 外部精度管理

(7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 4 年度）「課題 1 新型コロナウイルスの遺伝子解説・解析」に参加した。

(イ) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 4 年度）「課題 2 新型コロナウイルスの核酸検出検査」に参加した。

(ウ) 国立感染症研究所が実施する「インフルエンザウイルス分離培養・亜型同定技術実態調査（iTips 2022）」に参加した。

（3）理化学検査

内部精度管理は検査試行毎の精度確認として、外部精度管理は、擬似食品等の測定値を他の参加検査施設と比較することにより実施した（表 1-14-2）。

ア 食品等検査

(7) 内部精度管理

試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

(イ) 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された 3 検体 4 項目について検査を実施した。

イ 飲料水等検査

(7) 内部精度管理

約 10 試料ごと及び全ての試験終了後に一定濃度の標準試料について試験を行い、測定が規定値内であることを確認した。

(イ) 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会及び厚生労働省が実施する外部精度管理に参加し、4 検体 6 項目について実施した。

表 1-14-1 精度管理

検体種別	根拠規程
感染症の患者の検体等	千葉県病原体等検査業務要領
千葉県食品衛生監視指導計画に基づく収去食品等	千葉県食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領
千葉県家庭用品監視指導要領に基づく検体	千葉県家庭用品監視指導要領
飲料水等	水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）

表 1-14-2 2022 年度 理化学検査における精度管理

	内部精度管理		外部精度管理		
	頻度	内容	検体数 項目数	内容	実施機関
食品等	検査 実施毎	添加回収試験	3 検体 5 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・果実ペースト中の酸性タール色素中の許可色素 ・とうもろこしペースト中の 6 種農薬中 3 種農薬の定性・定量 ・鶏肉（むね）ペースト中のスルファジミジンの定量 	一般財団法人食品薬品安全センター
飲料水		約 10 試料ごと及び全ての試験終了後の標準試料測定	2 検体 2 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ナトリウム及びその化合物 ・ホルムアルデヒド 	千葉県水道水質管理連絡協議会 (水質検査精度管理委員会)
			2 検体 4 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム及びその化合物 ・アルミニウム及びその化合物 ・ジェオスミン ・2-メチルイソボルネオール (2-MIB) 	厚生労働省

6 感染症情報センター

感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」という。）に基づく「感染症発生動向調査事業実施要綱」の規定により、多様な感染症の発生及びまん延を防止し、適切な感染症対策を立案することを目的に、感染症の発生情報の把握と分析、及び病原体情報の収集、分析を行い、その結果を国に報告するとともに、保健所、医療機関等の関係者への還元・提供、ホームページで公開している。

事業は年単位（毎年1月から12月まで）で実施しているが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（第36週（9月）から翌年の第35週（8月）まで）で集計・解析している。

2022年の感染症発生動向調査の対象感染症は、全数把握対象感染症が91疾患、定点把握対象感染症が25疾患（五類の一部24疾患及び疑似症）となっている。調査対象感染症一覧（表1-15）。

（1）全数把握対象感染症の発生状況

全数把握感染症の月別届出数（表1-16）、及び過去5年の年別届出数（表1-17）。

概要は次のとおり。

ア 二類感染症

（7）結核

届出数は143例で2021年より増加。無症状病原体保有者の割合は2018年から2020年まではほぼ横ばいで（2018年（51例29.0%）、2019年（54例32.3%）、2020年（50例32.3%））、2021年（34例25.6%）に減少するも、2022年（55例38.5%）は増加（図1-1-1）。男性88例（61.5%）、女性55例（38.5%）、年齢中央値は全体で60歳、男性は66.5歳、女性は55歳（図1-1-2）。

イ 三類感染症

（7）腸管出血性大腸菌感染症

届出数は30例で2021年より増加。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は1例（図1-2-1）。男性の届出数は2018年以降ほぼ一定だが、女性の届出数は2021年以降増加（図1-2-2）。男性9例（30.0%）、女性21例（70.0%）、年齢中央値は28.5歳で、20歳代が最多（8例26.7%）（図1-2-3）。

ウ 四類感染症

（7）E型肝炎

届出数は13例で2021年より増加。患者が8例、無症状病原体保有者が5例。男性10例（76.9%）、女性3例（23.1%）で、50歳代（6例46.2%）が最多（図1-3）。

（4）つつが虫病

届出数は1例で2021年と同数。感染経路は、県内でダニに刺咬されたものと推定。

（ウ）デング熱

届出数は1例。病型はデング熱で、国外の流行地への渡航歴はあるが、感染経路は不明。

（イ）ライム病

届出数は2例で、2014年以来の届出。感染経路は、1例は国外でダニに刺咬されたものと推定され、1例は海外渡航歴がなく不明。

（オ）レジオネラ症

届出数は12例。病型は全て肺炎型（図1-4-1）。男性10例（83.3%）、女性2例（16.7%）、全て50歳代以上で、年齢中央値は70.5歳（図1-4-2）。

エ 五類感染症

（7）アメーバ赤痢

届出数は6例で2021年より増加。病型は全て腸管アメーバ症。全て男性で、30歳代が2例、40歳代が3例、70歳代が1例（図1-5）。

（イ）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

届出数は20例で2021年以降増加（図1-6-1）。男性12例（60.0%）、女性8例（40.0%）で、70歳代（7例35.0%）が最多（図1-6-2）。菌検出（重複あり）は、通常無菌的であるべき検体から8例（40.0%：*Klebsiella aerogenes* 6例、*K. pneumoniae* 1例、*Enterobacter cloacae* 1例）、通常無菌的ではない検体から13例（65.0%：*K. aerogenes* 6例、*E. cloacae* 5例、*Serratia marcescens* 1例、*Enterobacter sp.* 1例）（図1-6-3、図1-6-4）。

（ウ）急性脳炎

届出数は9例で2020年以降減少傾向。男性3例（33.3%）、女性6例（66.7%）（図1-7）。

（イ）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は5例で2021年とほぼ同数。男性3例、女性2例で、50歳代が1例、70歳代が3例、80歳代が1例。病原体の血清群は、A群、C群、G群、C群及びG群、不明が各1例（図1-8）。

（オ）後天性免疫不全症候群

届出数は2例で2020年以降の届出。いずれも男性で、30歳代及び40歳代。病名はいずれも無症候性キャリア。

（カ）ジアルジア症

届出数は1例で2021年と同数。感染経路は不明。

（キ）侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出数は3例で2020年以降の届出。男性1例、女性2例で、0歳代が2例、90歳代が1例。

（ク）侵襲性肺炎球菌感染症

届出数は10例で2021年と同数。男性6例、女性4例で、0歳代が最も多く4例、次いで80歳代が3例（図1-9）。

（ケ）水痘（入院例）

届出数は3例で2020年以降の届出。全て女性で、0歳代、20歳代、80歳代が各1例。ワクチン接種歴は無又は不明。

（コ）梅毒

届出数は52例で2021年より増加し、過去5年で最多。病型は、早期顕症梅毒（I期）17例（32.7%）、早期顕症梅毒（II期）20例（38.5%）、無症状病原体保有者15例（28.8%）（図1-10-1）。男性31例（59.6%）、女性21例（40.4%）。

年齢中央値は全体 35 歳、男性 42 歳、女性 24 歳（図 1-10-2）。

(サ) 破傷風

届出数は 1 例で、2019 年以降の届出。

(シ) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

届出数は 1 例で、2012 年以降の届出。80 歳代女性。通常無菌的ではない検体からの検出 (*Enterococcus faecium*)。

(ス) 百日咳

届出数は 1 例で 2021 年と同数。10 歳代未満でワクチン接種歴は 4 回。

オ 新型インフルエンザ等感染症

(ア) 新型コロナウイルス感染症

令和 4 年 8 月 25 日付け感染症法施行規則の一部改正により、令和 4 年 9 月 26 日から、届出対象が①65 歳以上の者（以下「65 歳以上」という。）②入院を要する者（以下「要入院」という。）③重症化リスクがあり、新型コロナウイルス感染症治療薬の投与又は新たに酸素投与が必要と医師が判断する者（以下「重症化リスク」という。）④妊婦⑤新型コロナウイルス感染症により死亡した患者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体（以下「死体」という。）に限定された。

a 1 月 1 日から 9 月 25 日までの発生状況

届出数は 143,465 例。性別その他又は未選択 10 例を除く 143,455 例中、月別の届出数は、2 月及び 8 月に 2 回のピークがあり、8 月が最多で 38,250 例 (26.7%) (図 1-11-1)。男性 71,549 例 (49.9%)、女性 71,906 例 (50.1%)。年齢中央値は 33 歳、年代別では 20 歳代 23,417 例 (16.3%) が最も多く、次いで 40 歳代 23,199 例 (16.2%)、30 歳代 21,664 例 (15.1%) (図 1-11-2)。類型別では、患者 130,275 例 (90.81%)、無症状病原体保有者 2,597 例 (1.81%)、疑似症患者（臨床的特徴を有し感染が疑われる要件に該当すること等から、医師が新型コロナウイルス感染症の疑似症と診断し、かつ、入院を要すると認める者及び同居家族などの感染者の濃厚接触者で検査を行うことなく臨床症状で医師が診断した者）10,568 例 (7.37%)、死体 15 例 (0.01%) (図 1-11-3)。

b 9 月 26 日から 12 月 31 日までの発生状況

届出数は 9,319 例で、性別その他又は未選択 3 例を除く 9,316 例中、65 歳以上が 7,797 例 (83.7%)、65 歳未満の者（以下「65 歳未満」という）が 1,519 例 (16.3%)。

65 歳以上 7,797 例について、月別の届出数は、12 月 (4,553 例、58.4%) が最多 (図 1-11-4)。男性 3,557 例 (45.6%)、女性 4,240 例 (54.4%)。年齢中央値は 76 歳。類型別では、「65 歳以上」のみ 6,010 例 (77.1%)、要入院及び重症化リスクを含む事例（以下「要入院・重症化リスクあり」という。）115 例 (1.5%)、要入院を含む事例（以下「要入院あり」という。）798 例 (10.2%)、重症化リスクを含む事例（以下「重症化リスクあり」という。）861 例

(11.0%)、死体 13 例 (0.2%) (図 1-11-5)。

65 歳未満 1,519 例について、月別の届出数は、12 月 (785 例、51.7%) が最多 (図 1-11-6)。男性 671 例 (44.2%)、女性 848 例 (55.8%)。年齢中央値は 46 歳、年代別では 50 歳代 384 例 (25.3%) が最も多く、次いで 30 歳代 344 例 (22.6%)、60-64 歳 269 例 (17.7%) (図 1-11-7)。類型別では、未選択 34 例を除く 1,485 例中、妊婦 388 例 (26.1%)、妊婦以外 1,097 例 (73.9%)。妊婦 388 例について、「妊婦」のみ 364 例 (93.8%)、「要入院あり」11 例 (2.8%)、「重症化リスクあり」13 例 (3.4%) (図 1-11-8)。妊婦以外 1,097 例について、「要入院・重症化リスクあり」40 例 (3.6%)、「要入院あり」412 例 (37.6%)、「重症化リスクあり」645 例 (58.8%) (図 1-11-9)。

(令和 5 年 6 月 1 日現在 HER-SYS からの抽出)。

(2) 定点把握対象の感染症

定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移 (図 2-1)、定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移及び型別迅速診断結果 (図 2-2)、定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移 (図 2-3)、定点把握性感染症の月別報告数 (表 1-18)、定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移 (図 2-4)、並びに基幹定点把握感染症の月別報告数 (表 1-19)。

概要は次のとおり。

ア 五類感染症

(ア) RS ウイルス感染症

定点当たり報告数（年平均）は 0.33 で例年より増加（過去 10 年の平均は 0.27）。発生動向は、第 27 週 (2.17)、第 31 週 (1.83) 及び第 37 週 (1.28) の 3 回のピークを迎え、2021 年とほぼ同様 (図 2-1)。

(イ) 感染性胃腸炎

定点当たり報告数（年平均）は 4.80 で 2021 年 (2.44) より増加（過去 10 年の平均は 5.35）。発生動向は、例年とほぼ同様 (図 2-1)。

(ウ) 手足口病

定点当たり報告数（年平均）は 1.97 で過去 10 年の平均 (1.27) より増加。発生動向は、第 31 週 (11.00) 及び第 36 週 (7.89) の 2 回のピークを迎えた (図 2-1)。

(エ) 突発性発しん

定点当たり報告数（年平均）は 0.48 で 2021 年 (0.54) より減少（過去 10 年の平均は 0.63） (図 2-1)。

(オ) ヘルパンギーナ

定点当たり報告数（年平均）は 0.15 で 2021 年 (0.03) より増加（過去 10 年の平均は 0.64）。発生動向は、第 32 週 (1.33) にピークを迎えた (図 2-1)。

(カ) インフルエンザ

(2022 年 36 週から 2023 年 35 週)

定点当たり報告数（シーズン平均）は 2.26 で、2021-2022 シーズン (0.01) より増加（過去 10 年の平均は 4.20）。発生動向は、2023 年

第5週(9.18)にピークを迎え、その後は第19週、第27週及び第33週を除き流行開始の目安となる1.00を上回った状態が持続し、第35週に増加した(図2-2)。

表1-15 調査対象感染症一覧（2022年12月31日現在）

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
1	一類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2		クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3		痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4		南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5		ペスト	全数	直ちに	○	○	○
6		マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7		ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	二類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9		結核	全数	直ちに	○	○	○
10		ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11		重症急性呼吸器症候群 *1	全数	直ちに	○	○	○
12		中東呼吸器症候群 *2	全数	直ちに	○	○	○
13		鳥インフルエンザ（H5N1）	全数	直ちに	○	○	○
14		鳥インフルエンザ（H7N9）	全数	直ちに	○	○	○
15	三類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16		細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17		腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18		腸チフス	全数	直ちに	○		○
19		パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	四類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21		ウエストナイル熱 *3	全数	直ちに	○		○
22		A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23		エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24		黄熱	全数	直ちに	○		○
25		オウム病	全数	直ちに	○		○
26		オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
27		回帰熱	全数	直ちに	○		○
28		キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
29		Q熱	全数	直ちに	○		○
30		狂犬病	全数	直ちに	○		○
31		コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
32		サル痘	全数	直ちに	○		○
33		ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34		重症熱性血小板減少症候群 *4	全数	直ちに	○		○
35		腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36		西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37		ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38		炭疽	全数	直ちに	○		○
39		チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40		つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41		デング熱	全数	直ちに	○		○
42		東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43		鳥インフルエンザ *5	全数	直ちに	○		○
44		ニパウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45		日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46		日本脳炎	全数	直ちに	○		○
47		ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
48	四類	Bウイルス病	全数	直ちに	○		○
49		鼻疽	全数	直ちに	○		○
50		ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51		ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52		ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53		発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54		ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55		マラリア	全数	直ちに	○		○
56		野兔病	全数	直ちに	○		○
57		ライム病	全数	直ちに	○		○
58		リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59		リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60		類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61		レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62		レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63		ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	五類	アメーバ赤痢	全数	7日以内	○		
65		ウイルス性肝炎 *6	全数	7日以内	○		
66		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	全数	7日以内	○		
67		急性弛緩性麻痺 *7	全数	7日以内	○		
68		急性脳炎 *8	全数	7日以内	○		
69		クリプトスポリジウム症	全数	7日以内	○		
70		クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7日以内	○		
71		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7日以内	○		
72		後天性免疫不全症候群	全数	7日以内	○		○
73		ジアルジア症	全数	7日以内	○		
74		侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7日以内	○		
75		侵襲性髄膜炎菌感染症	全数	直ちに	○		
76		侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7日以内	○		
77		水痘 *9	全数	7日以内	○		
78		先天性風しん症候群	全数	7日以内	○		
79		梅毒	全数	7日以内	○		○
80		播種性クリプトコックス症	全数	7日以内	○		
81		破傷風	全数	7日以内	○		
82		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7日以内	○		
83		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7日以内	○		
84		百日咳	全数	7日以内	○		
85		風しん	全数	直ちに	○		
86		麻しん	全数	直ちに	○		
87		薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7日以内	○		
88		R S ウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89		咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
91		感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
92		水痘	定点	翌週の月曜日	○		
93		手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
94		伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		
95		突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
96	ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○			

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
97	五類	流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
98		インフルエンザ *10	定点	翌週の月曜日	○		
99		急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
100		流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
101		性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
102		性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
103		尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
104		淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
105		クラミジア肺炎 *11	定点	翌週の月曜日	○		
106		細菌性髄膜炎 *12	定点	翌週の月曜日	○		
107		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
108		マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
109		無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
110		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
111	薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○			
112	新型インフル エンザ等 感染症	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
113		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114		新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
115		再興型新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
116	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中医療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに	-	-	-

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

*3 ウエストナイル脳炎を含む

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る

*5 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く

*6 E型肝炎及びA型肝炎を除く

*7 急性灰白髄炎を除く

*8 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

*9 患者が入院を要すると認められるものに限る

*10 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

*11 オウム病を除く

*12 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について
（平成11年3月19日健医発第458号通知）

（令和3年2月10日健感発0210第6号改正）2021年2月13日施行

類型	感染症名	届出数												
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
四類	発しんチフス													
	ボツリヌス症													
	マラリア													
	野兎病													
	ライム病	2									2			
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽													
	レジオネラ症	12		1		2	1	2	1	1	3	1		
	レプトスピラ症													
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	6						1		1		1	3	
	ウイルス性肝炎													
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	20	1		2	3		2	1		4	3	1	3
	急性弛緩性麻痺													
	急性脳炎	9				3	2	1					3	
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病													
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5				1		1				2		1
	後天性免疫不全症候群	2			1									1
	ジアルジア症	1								1				
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3								1		1	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	1		1	1		3		1		1	2	
	水痘（入院例）	3	1										2	
	先天性風しん症候群													
	梅毒	52	2	2	3	3	2	3	5	9	6	6	6	5
	播種性クリプトコックス症													
	破傷風	1								1				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1												1
百日咳	1		1											
風しん														
麻しん														
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	新型コロナウイルス感染症*	152,784	10,740	19,513	13,283	9,636	4,447	2,371	31,228	38,254	14,260	1,074	2,638	5,340
	再興型新型コロナウイルス感染症													
	計	153,100	10,757	19,533	13,310	9,666	4,464	2,400	31,259	38,287	14,289	1,099	2,676	5,360

*新型コロナウイルス感染症は、感染症法施行規則の一部改正により、令和4年9月26日から届出対象が①65歳以上の者②入院を要する者③重症化リスクがあり、かつ新型コロナウイルス感染症治療薬の投与又は新たに酸素投与が必要と医師が判断する者④妊婦⑤新型コロナウイルス感染症により死亡した患者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体に限定された。

表1-17 全数把握感染症の年別届出数（2018年-2022年）

類型	感染症名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	結核	177	167	155	133	143
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群					
	鳥インフルエンザ（H5N1）					
	鳥インフルエンザ（H7N9）					
三類	コレラ					
	細菌性赤痢	1				
	腸管出血性大腸菌感染症	24	19	20	24	30
	腸チフス	1		2		
	パラチフス					
四類	E型肝炎	7	9	4	4	13
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	9	6		1	
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症		1			
	サル痘					
	ジカウイルス感染症					
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱					
	つつが虫病	1			1	1
	デング熱		3	2		1
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱			1	1	
	日本脳炎					
ハンタウイルス肺症候群						
Bウイルス病						

類型	感染症名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
四類	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
	ヘンドラウイルス感染症					
	発しんチフス					
	ボツリヌス症					
	マラリア					
	野兔病					
	ライム病					2
	リッサウイルス感染症					
	リフトバレー熱					
	類鼻疽					
	レジオネラ症	14	15	13	13	12
	レプトスピラ症					
ロッキー山紅斑熱						
五類	アメーバ赤痢	3	6	1	3	6
	ウイルス性肝炎			4	4	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	20	21	13	15	20
	急性弛緩性麻痺	3	1			
	急性脳炎	12	15	10	11	9
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	2	5	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9	9	4	4	5
	後天性免疫不全症候群	3	6	2		2
	ジアルジア症	1			1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	7	2		3
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1				
	侵襲性肺炎球菌感染症	25	12	5	10	10
	水痘（入院例）	3	5	1		3
	先天性風しん症候群					
	梅毒	23	34	24	48	52
	播種性クリプトコックス症	2	2			
	破傷風	2	2			1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1
百日咳	222	137	10	1	1	
風しん	95	48	2	1		
麻しん		3				
薬剤耐性アシネトバクター感染症						
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ					
	再興型インフルエンザ					
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	13,976	152,784
	再興型新型コロナウイルス感染症					
指定	新型コロナウイルス感染症	-	-	1,729	2,445	-

*新型コロナウイルス感染症は、令和3年2月13日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正施行により、「指定感染症」から「新型インフルエンザ等感染症」に分類が変更された。

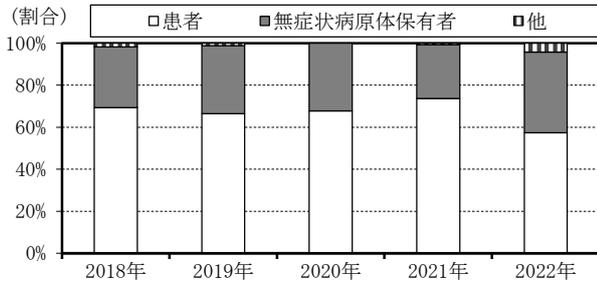


図1-1-1 結核 過去5年の診断類型の割合の推移

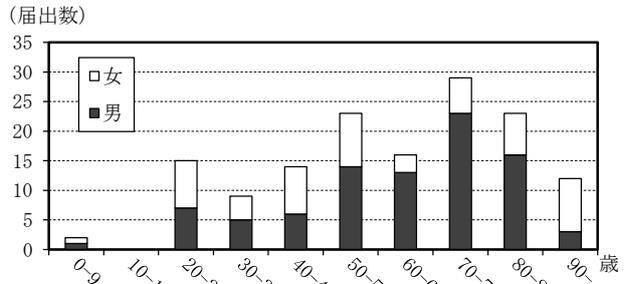


図1-1-2 結核 性別及び年代別届出数

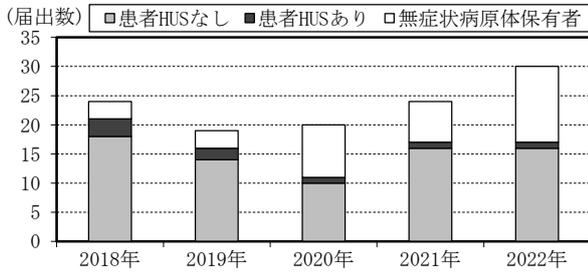


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症 過去5年の類型別届出数の推移

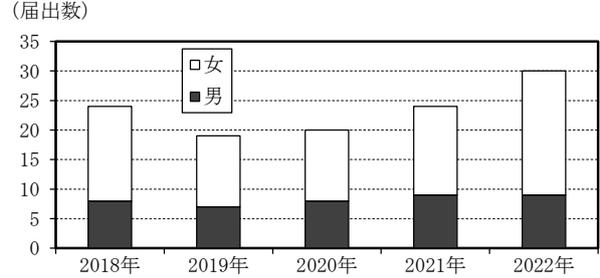


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症 過去5年の性別届出数の推移

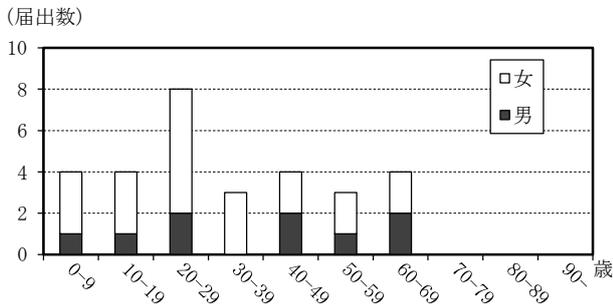


図1-2-3 腸管出血性大腸菌感染症 性別及び年代別届出数

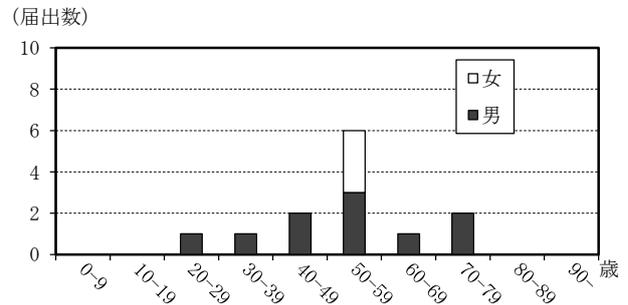


図1-3 E型肝炎 性別及び年代別届出数

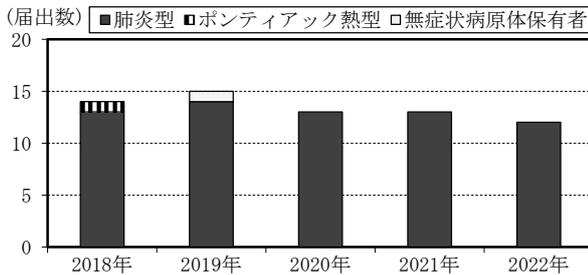


図1-4-1 レジオネラ症 過去5年の病型別届出数の推移

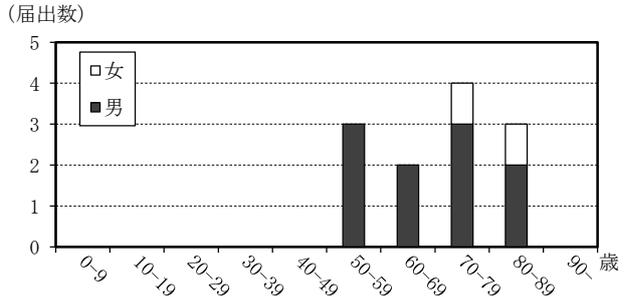


図1-4-2 レジオネラ症 性別及び年代別届出数

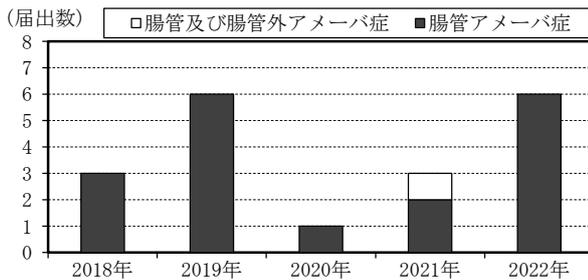


図1-5 アメーバ赤痢 過去5年の病型別届出数の推移

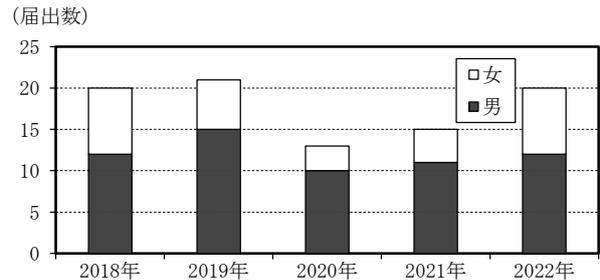


図1-6-1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 過去5年の性別届出数の推移

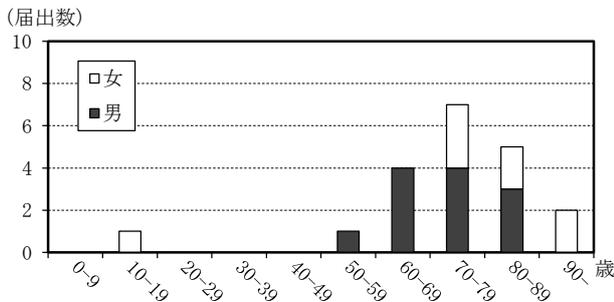


図1-6-2 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 性別及び年代別届出数

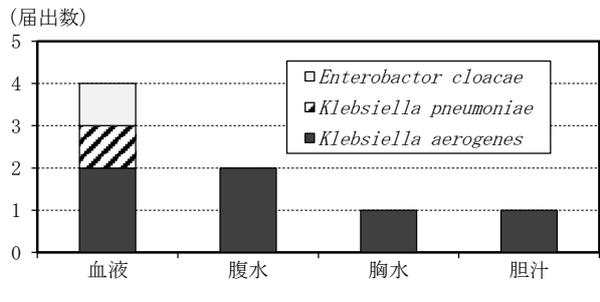


図1-6-3 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 無菌的であるべき検体種別及び検出菌

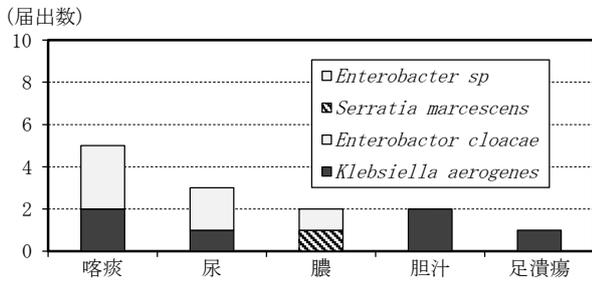


図1-6-4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 無菌的ではない検体種別及び検出菌

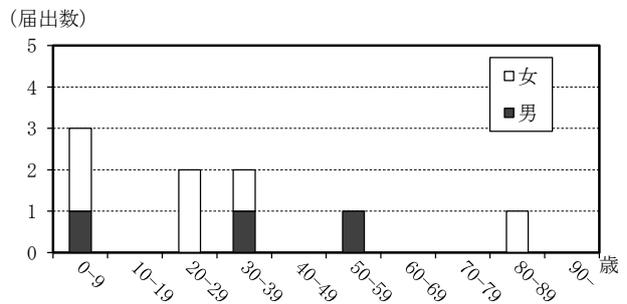


図1-7 急性脳炎 性別及び年代別届出数

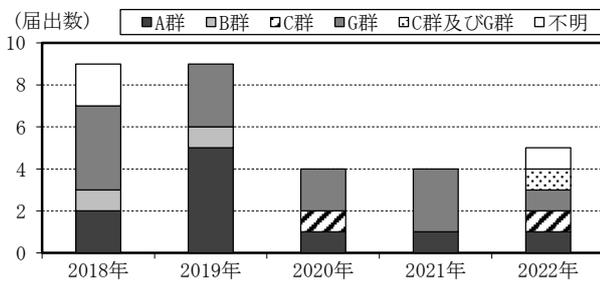


図1-8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 過去5年の血清群別届出数の推移

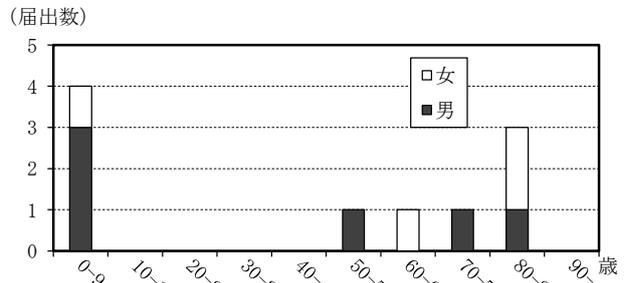


図1-9 侵襲性肺炎球菌感染症 性別及び年代別届出数

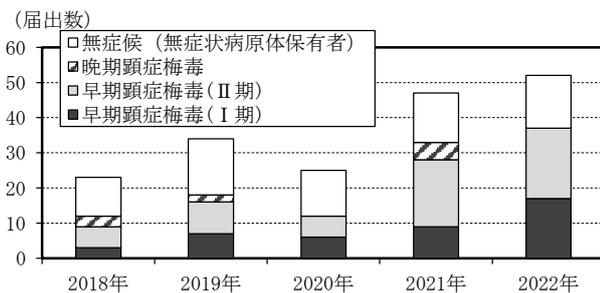


図1-10-1 梅毒 過去5年の病型別届出数の推移

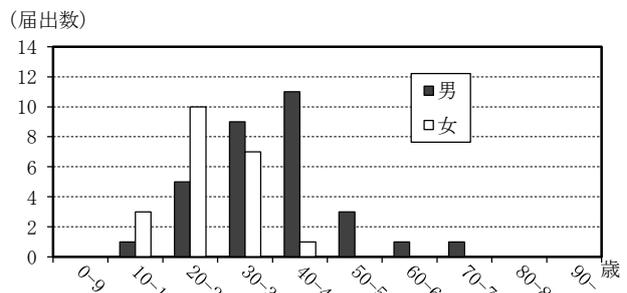


図1-10-2 梅毒 性別及び年代別届出数

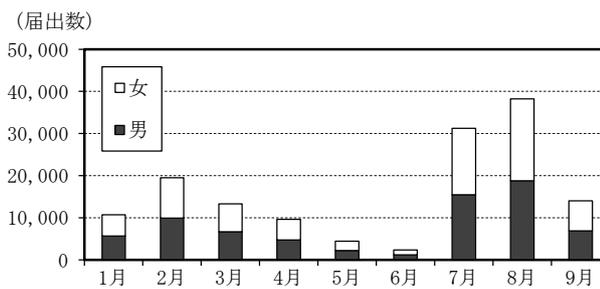


図1-11-1 新型コロナウイルス感染症 月別・性別届出数(1月1日-9月25日)

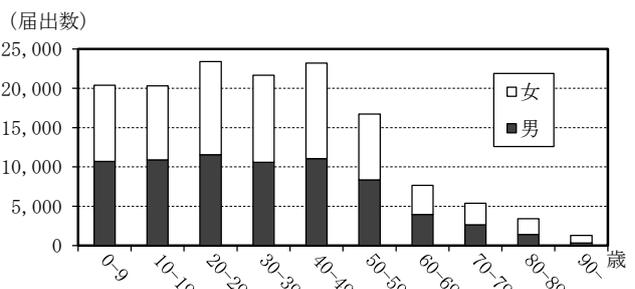


図1-11-2 新型コロナウイルス感染症 性別及び年代別届出数(1月1日-9月25日)

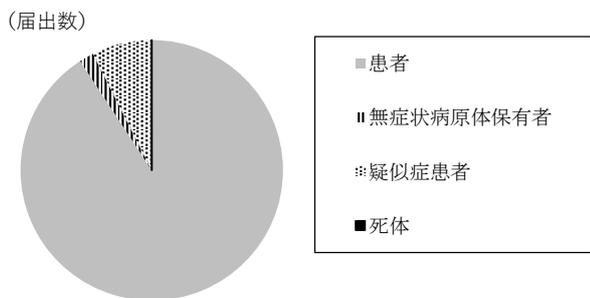


図1-11-3 新型コロナウイルス感染症
類型別届出数の割合(1月1日-9月25日)

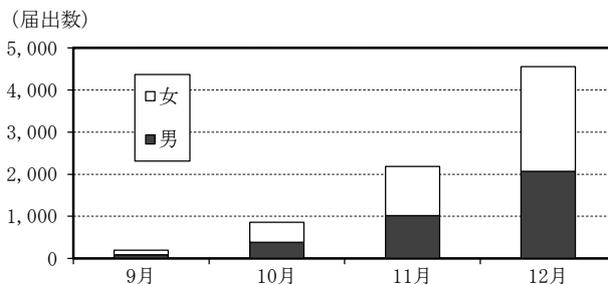


図1-11-4 新型コロナウイルス感染症
月別・性別届出数(65歳以上:9月26日-12月31日)

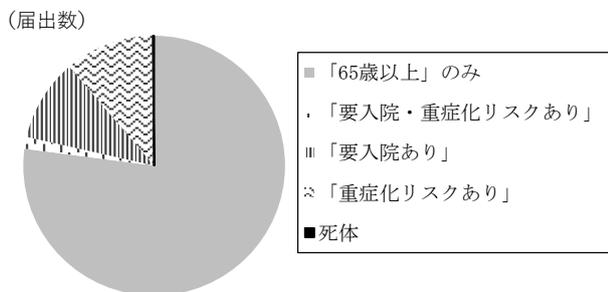


図1-11-5 新型コロナウイルス感染症
類型別届出数の割合(65歳以上:9月26日-12月31日)

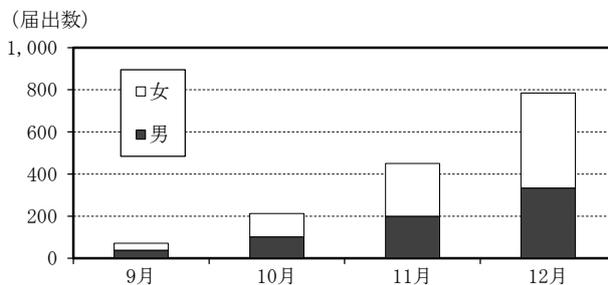


図1-11-6 新型コロナウイルス感染症
月別・性別届出数(65歳未満:9月26日-12月31日)

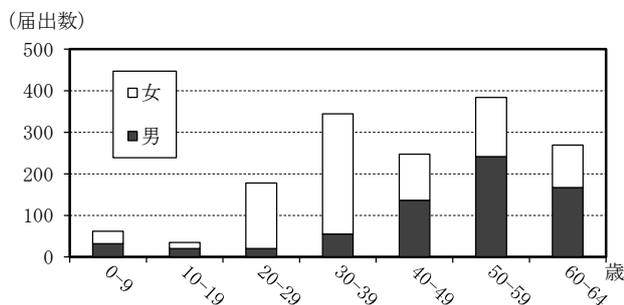


図1-11-7 新型コロナウイルス感染症
性別及び年代別届出数(65歳未満:9月26日-12月31日)

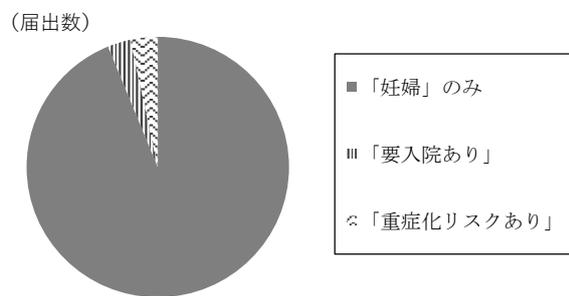


図1-11-8 新型コロナウイルス感染症
類型別届出数の割合(65歳未満・妊婦:9月26日-12月31日)

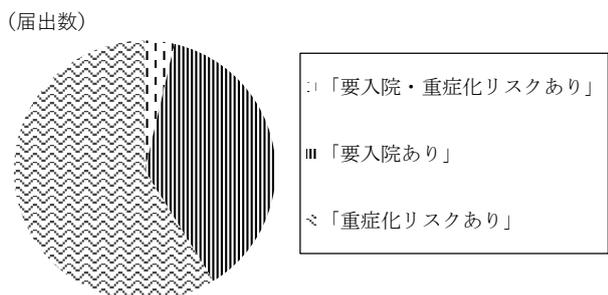


図1-11-9 新型コロナウイルス感染症
類型別届出数の割合(65歳未満・妊婦以外:9月26日-12月31日)

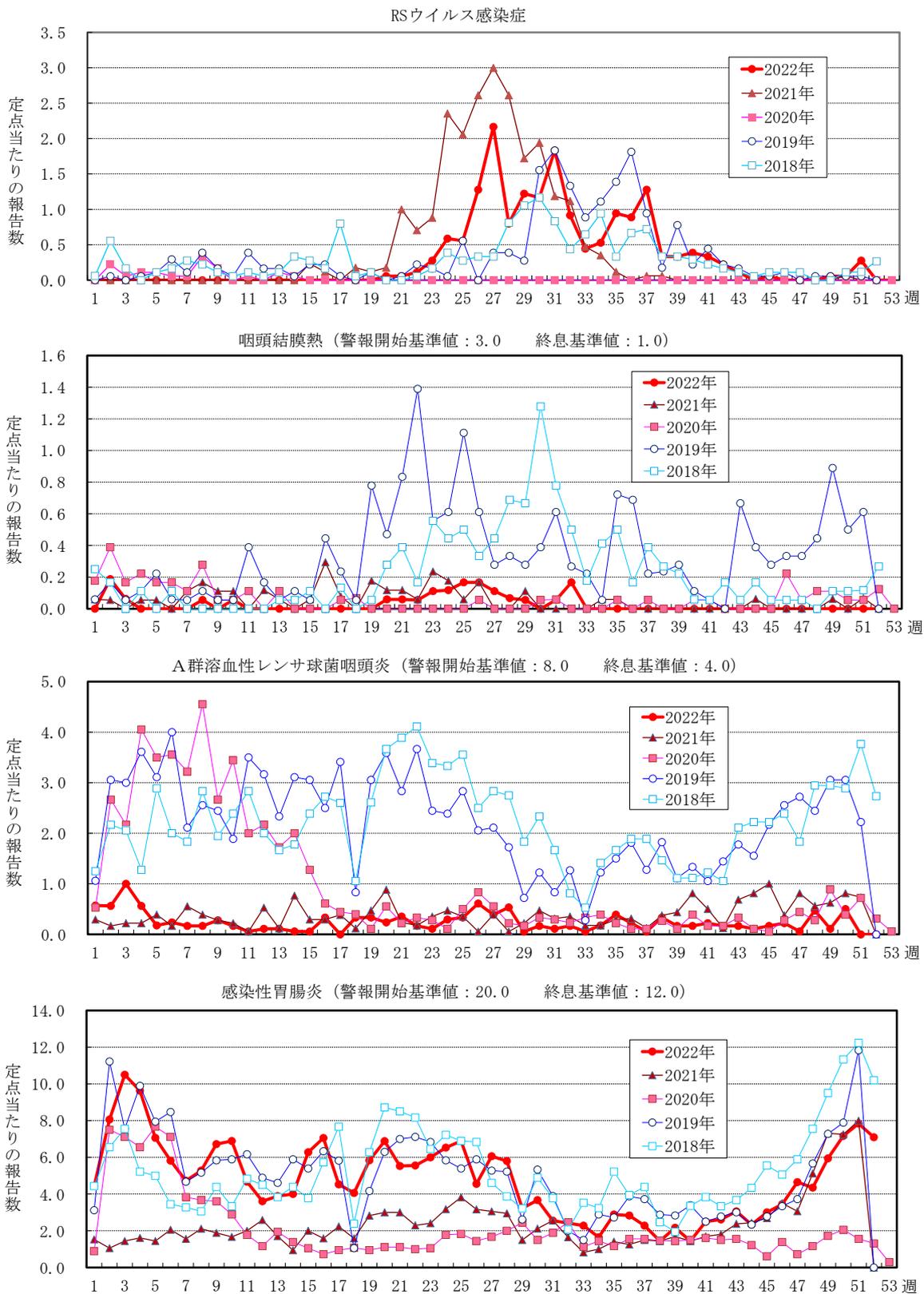


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2018年-2022年）

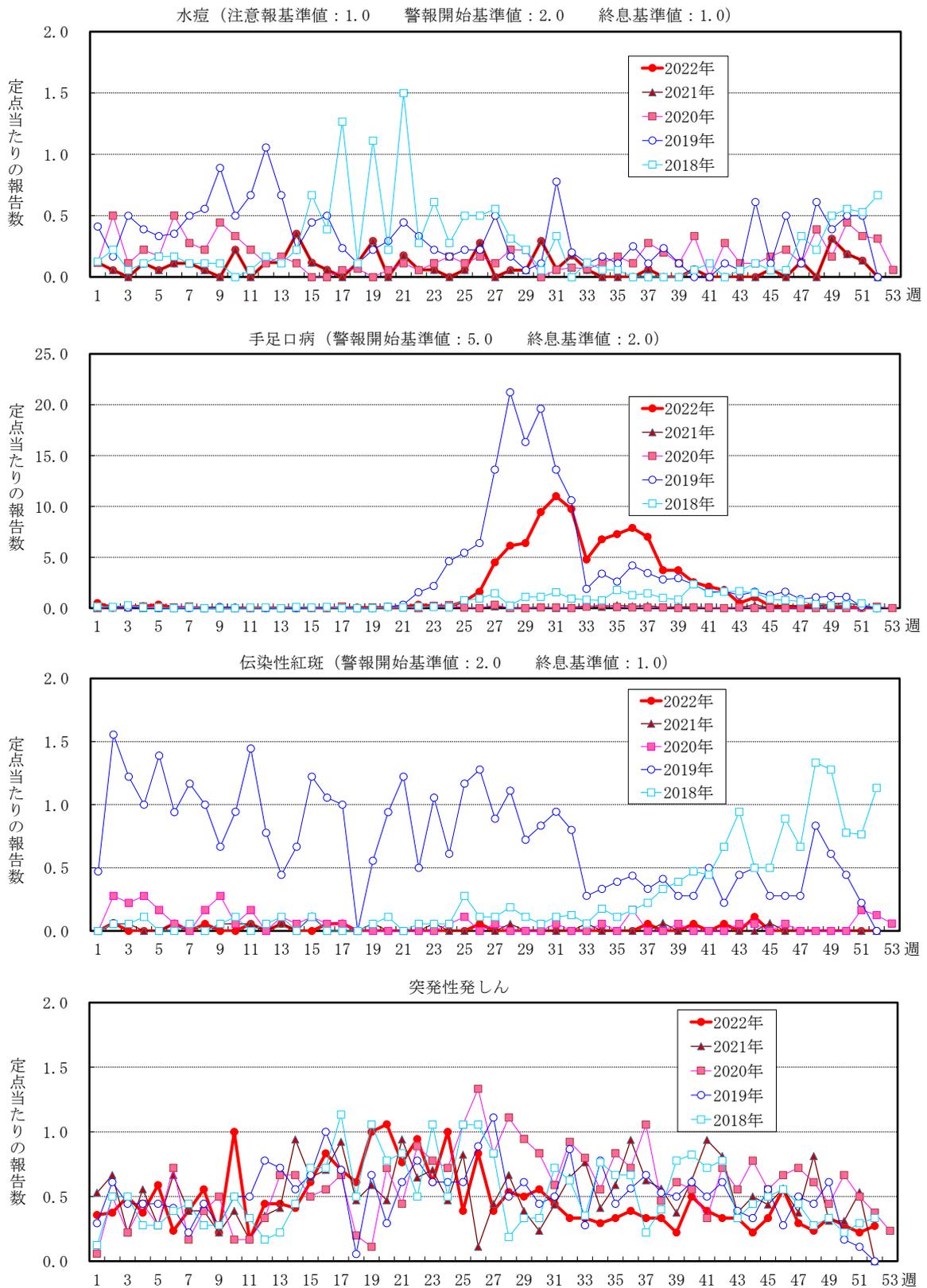


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2018年-2022年）

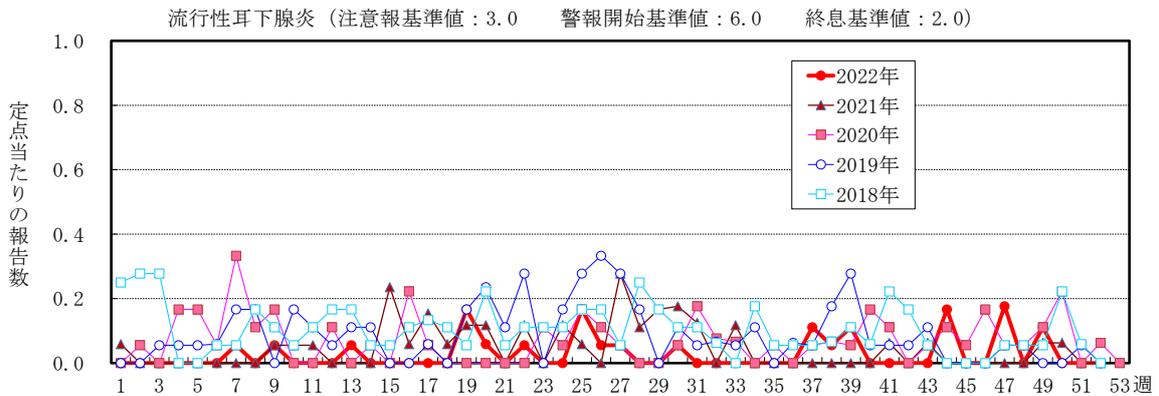
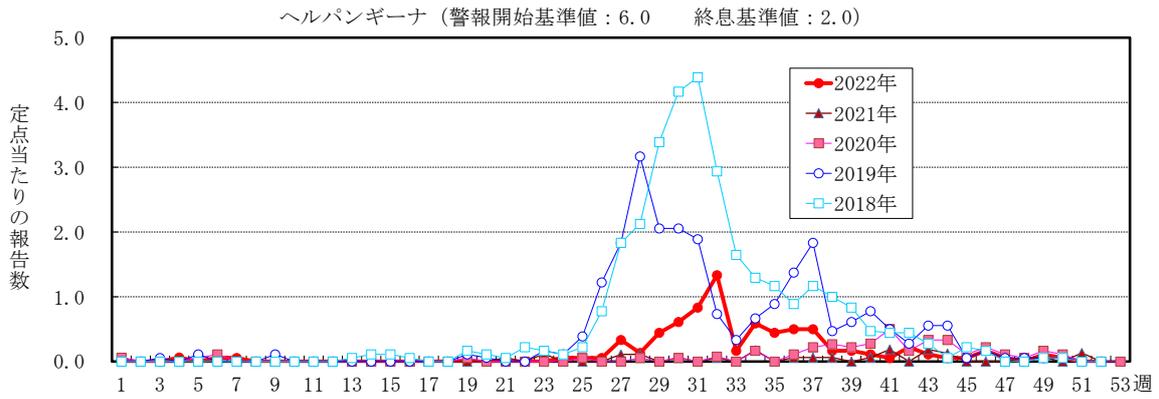


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2018年-2022年）

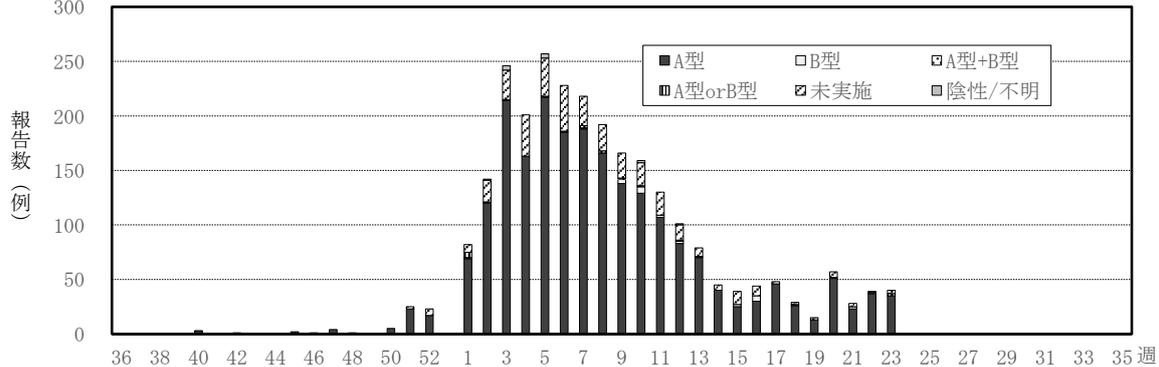
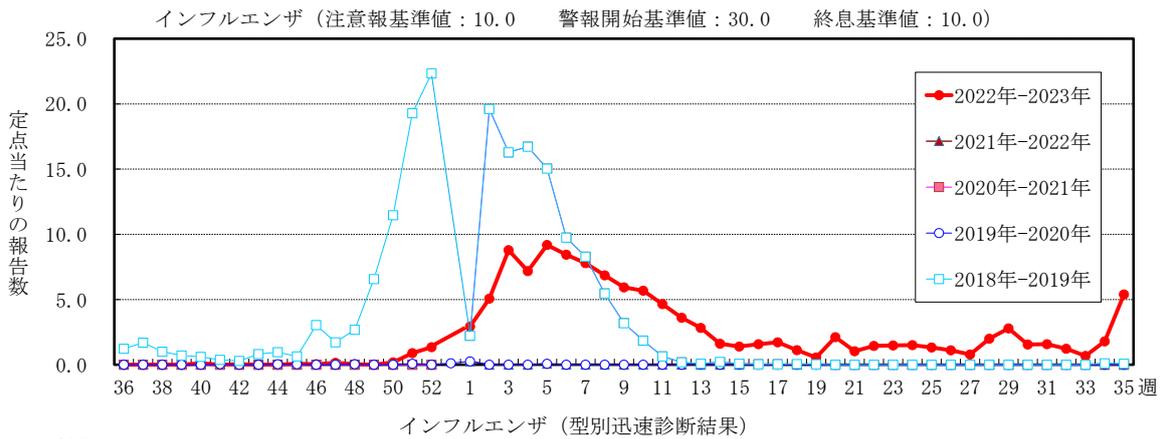


図2-2 定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移（2018年-2019年/2022年-2023年）及び型別迅速診断結果（2022年-2023年）

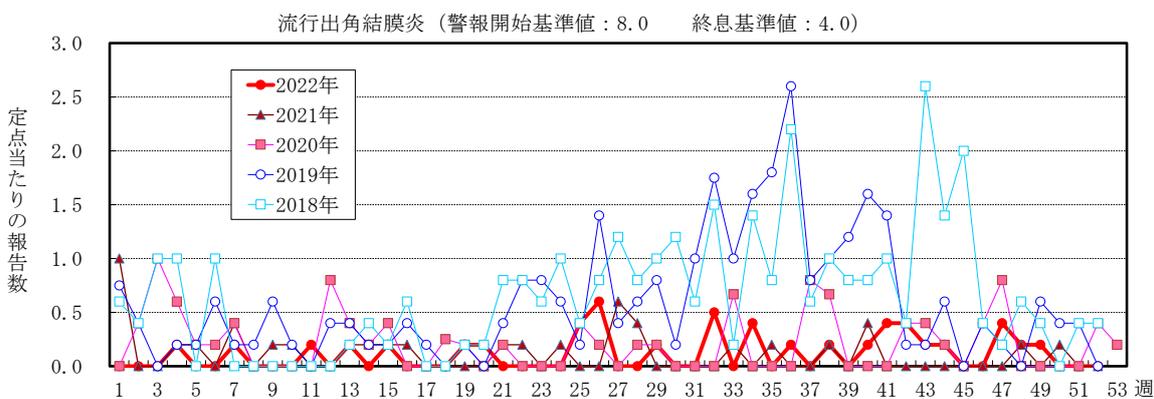
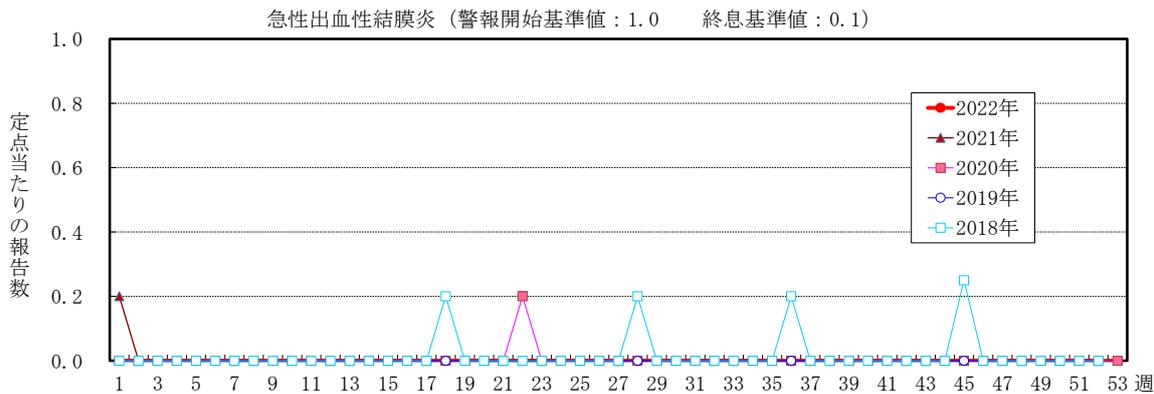


図2-3 定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（2018年-2022年）

表1-18 定点把握性感染症月別報告数（2022年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	性器クラミジア感染症	計	145	119	102	101	145	118	135	128	11	135	129	7	1,275
			20.7	17.0	14.6	14.4	20.7	16.9	19.3	18.3	1.8	19.3	18.4	1.8	15.9
		男	138	114	97	94	134	113	127	118	6	124	119	2	1,186
			19.7	16.3	13.9	13.4	19.1	16.1	18.1	16.9	1.0	17.7	17.0	0.5	14.8
五類	性器ヘルペスウイルス感染症	計	29	9	11	9	4	4	11	12	10	7	2	3	111
			4.1	1.3	1.6	1.3	0.6	0.6	1.6	1.7	1.7	1.0	0.3	0.8	1.4
		男	28	6	2	2	0	0	2	7	3	0	0	0	50
			4.0	0.9	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.6
五類	尖圭コンジローマ	計	7	4	10	6	9	19	14	19	2	8	11	5	114
			1.0	0.6	1.4	0.9	1.3	2.7	2.0	2.7	0.3	1.1	1.6	1.3	1.4
		男	7	4	9	6	8	16	11	13	2	2	4	0	82
			1.0	0.6	1.3	0.9	1.1	2.3	1.6	1.9	0.3	0.3	0.6	0.0	1.0
五類	淋菌感染症	計	47	43	33	34	35	40	52	49	6	13	9	1	362
			6.7	6.1	4.7	4.9	5.0	5.7	7.4	7.0	1.0	1.9	1.3	0.3	4.5
		男	47	43	31	32	34	40	51	46	4	11	9	0	348
			6.7	6.1	4.4	4.6	4.9	5.7	7.3	6.6	0.7	1.6	1.3	0.0	4.4
-	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	計	9	4	5	9	15	12	11	16	14	20	29	0	144
			1.3	0.6	0.7	1.3	2.1	1.7	1.6	2.3	2.3	2.9	4.1	0.0	1.8
		男	9	4	5	9	15	12	11	16	14	20	28	0	143
			1.3	0.6	0.7	1.3	2.1	1.7	1.6	2.3	2.3	2.9	4.0	0.0	1.8
-	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

表1-19 基幹定点把握感染症月別報告数（2022年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	メチシリン耐性ブドウ球菌感染症	計	2	3	2	4	1	3	3	2	3	5	6	5	39
		男	1	2	0	3	1	2	2	1	1	2	5	2	22
		女	1	1	2	1	0	1	1	1	2	3	1	3	17
五類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五類	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

定点あたりの報告数

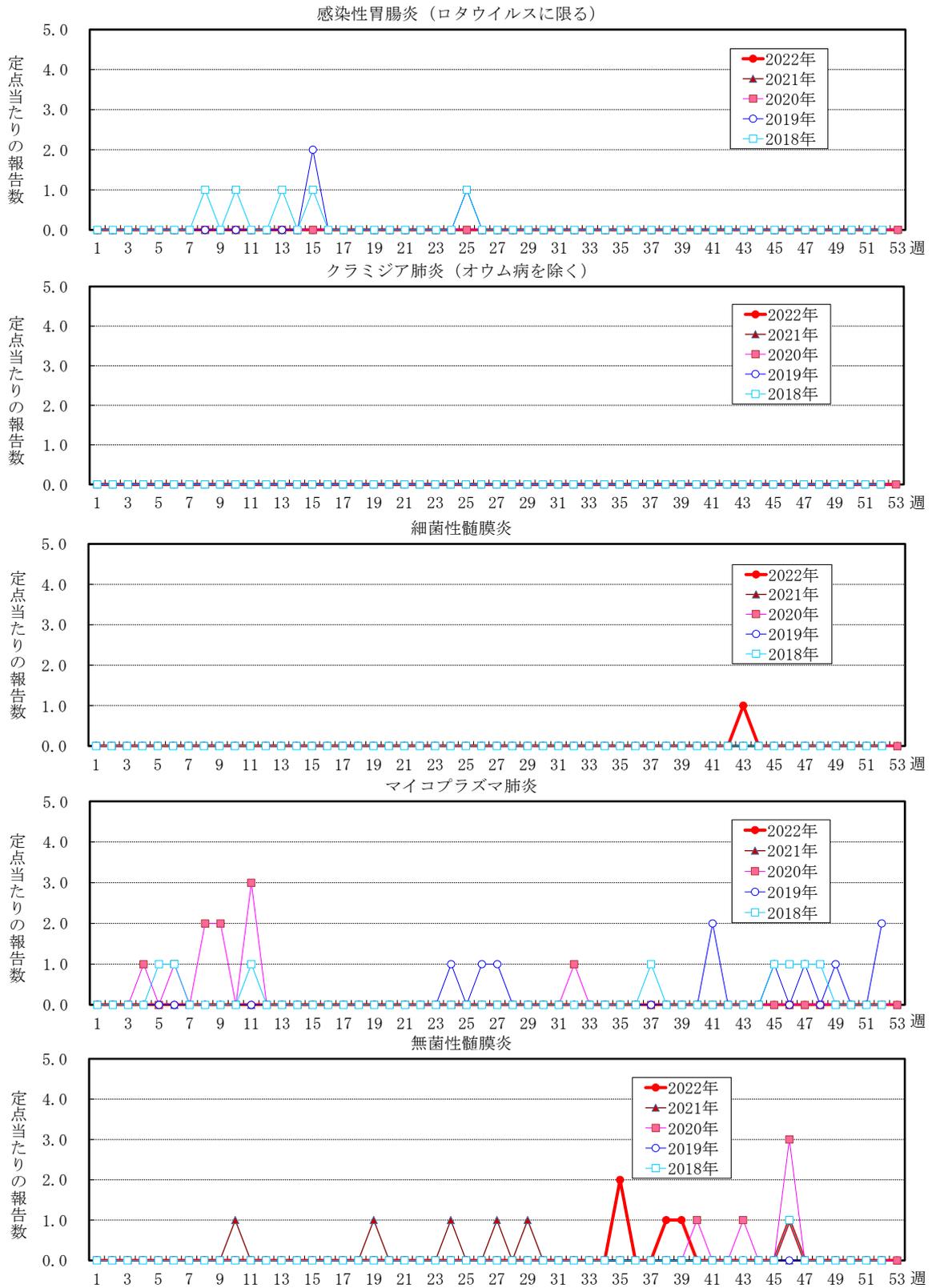


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2018年-2022年）